

〔報道〕「春陽・国画連合展」／「春陽会名古屋展」  
・『中部日本新聞』 昭和三十二年五月十六日

(42)

「春陽・国画連合展」／朝倉文夫回顧展」  
きょう開幕する 二つの展覧会

版画に独壇場 (春陽・国画連合展)

春陽・国画連合展は本社主催により、十七日から二十八日まで愛知県美術館で開かれる。春陽展は絵画、版画、舞台美術の三科で二百四十点、国画展は絵画、版画、工芸、写真と四科で三百四十点。全会場六百点に近い大展覧会である。十六日は東京からかけつけた国画会の宮田重雄氏や地元の杉本健吉氏、また春陽会では東京会員の中谷泰氏に地元のオール・メンバーが参加して飾りつけを終了した。

国画展は従来に比べてぐんと非具象形式の絵がふえ、春陽展の新具象の多い会場とよい対照をなしているが、春陽展の岡鹿之助、三雲祥之助、加山四郎氏ら、国画展の宮田重雄、香月泰男、川口軌外、杉本健吉氏らがそれぞれ力作をならべている。

版画は、春陽、国画の独壇場ともいえるくらいで、春陽展の長谷川潔、駒井哲郎、国画展のブブノワ、益田義信の諸氏が佳作を数多く展示している。国画展の染色工芸、春陽展の舞台美術も独特のものであり、大いに人気をよぶものと期待されている。

〔郷土作家の作品 春陽・国画連合展〕

\* 出品作品紹介 / 青字作品題名無

『中部日本新聞』 昭和三十二年五月十四日 「三河版」

- ・ 春陽会 市川 晃 (宝飯郡御津町豊沢) 《ランプと静物》
- ・ 国画会 鶴田昌司 (岡崎市亀井町) 《早春》

五月十五日 〈三河版〉

- ・ 春陽会 伊藤勲志 (豊川市牛久保町棒田) 《やぎ》
- ・ 国画会 小山田敏子 (岡崎市伊賀町愛宕荘) 《おんどり》

五月十六日 〈三河版〉

- ・ 国画会 鈴木坂治 (岡崎市元能見町西町) 《田園地帯》
- ・ 春陽会 都築武雄 (碧海郡桜井町大字木戸) 《俺達の村》

五月十七日 〈尾張版〉

- ・ 国画会 写真 八木常治 (一宮市上本町通) 《光る鉄路》

五月十七日 〈三河版〉

- ・ 春陽会 今泉洋吉 (宝飯郡御津町大字浮野) 《壁柱》
- ・ 国画会 竹内 浩 (蒲郡市三谷町東前) 《食卓の静物》

五月十七日 〈三重版〉

- ・ 国画会 荒木 寛 《蓮》 / ・ 春陽会 高木敏子 《積藁の風景》

五月十七日 〈三重版〉

- ・ 春陽会 出岡 実 《網にかかった魚》
- ・ 春陽会 南川郁雄 《黒と白の構成》

五月十八日 〈三河版〉

- ・ 春陽会 生駒英世 (岡崎市伊賀町愛宕) 《石とツチ》
- ・ 国画会 杉坂 鈞 (碧海郡上郷村) 《野の仏》

五月十八日 〈尾張版〉

- ・ 春陽会 大沢鉦一郎 (知多郡知多町大草西屋敷) 《写生》

五月十九日 〈尾張版〉

- ・ 国画会 田島幸子 (一宮市石野町) 《青い風景》

五月十九日 〈三河版〉

- ・ 国画会 佐藤 宏 《印象》 / ・ 春陽会 西尾 健 《古煙突のカサ》

五月二十一日 〈三河版〉

- ・ 春陽会 稲垣 収 (岡崎市伊賀町地蔵ヶ入) 《火葬場》

・春陽会 築瀬武夫(挙母市大字寺部字新屋町) 《**鑄造作業**》

五月二十一日 〈尾張版〉

・春陽会 前川剛平(春日井市勝川町) 《**ビスモーター**》

五月二十一日 〈三重版〉

・春陽会 山本千香子 《**赤いパイプ**》

・春陽会 池田斗九三 《**静物**》

五月二十二日 〈三重版〉

・春陽会 郡楠昭 《**幻想の建築**》

・春陽会 岡田敬 《**静物**》

五月二十二日 〈尾張版〉

・国画会 則武百合子(二宮市今伊勢町本神戸) 《**瀬戸**》

五月二十二日 〈三河版〉

・春陽会 田中英明(挙母市大字挙母字切戸) 《**工事場**》

・春陽会 米岡秀樹(挙母市大字挙母字西薬師) 《**タンクとパイプ**》

五月二十三日 〈尾張版〉

・春陽会 須田敏夫(愛知郡鳴海町雷) 《**妙高暮色**》

五月二十三日 〈三河版〉

・春陽会 川澄俊次(渥美郡田原町柳沢) 《**靱摺機**》

・春陽会 金子進(豊橋市新銭町) 《**赤い静物**》

五月二十三日 〈三重版〉

・春陽会 小林博次 《**ポスターのある風景**》

・春陽会 田中澄子 《**ダリア**》

五月二十四日 〈三河版〉

・春陽会 石川隆雄(碧海郡高岡町大字駒場字南屋敷) 《**丘**》

・春陽会 森下衛(渥美郡渥美町中山) 《**河口**》

五月二十四日 〈尾張版〉

・国画会 中井脩(海部郡立田村) 《**静物**》

五月二十五日 〈尾張版〉

・春陽会 保浦清頭(犬山市熊野町) 《**石灰工場にて**》

五月二十六日 〈尾張版〉

・春陽会 村瀬金光(愛知県日進村北新田) 《建物》

・春陽会 山口繁(愛知県鳴海町前之輪) 《希望》

五月二十八日 〈尾張版〉

・国画会 石原忠幸(海部郡蟹江町須成) 《かなしみ》

・春陽会 古瀬哲二(益田郡金山町、祖師の野東中学教官) 「石ガキよりも  
家屋に苦心した」

五月三十一日 〈岐阜版〉

・春陽会 加納新生(中津川市駅前菓子店主) 「画面の構成に努力」

・春陽会 高山清(中津市第二中教諭) 「好きなままに描く」

五月二十二日 〈岐阜版〉

・国画会 安藤誠吾(瑞浪市寺河戸町) 「冬枯れの感じに苦心」

・春陽会 伊藤敏博 「東洋美発掘に努力」

〔「私の作品」 春陽・国画連合展〕 \* 出品作家寄稿

『中部日本新聞』 昭和三十二年五月十七日 〈名古屋市内版〉

・春陽会 清水耕一(大垣市二葉町、大垣北高教諭) 「密集する平面表現」

・春陽会 尾関重之助(多治見市虎溪山町) 「最後まででこずる」

五月二十三日 〈岐阜版〉

・国画会 安藤実(土岐市駄知町 駄知小教諭) 「黒線を基調に構成」

・国画会工芸 佐野周(養老郡養老町養老公園) 「陶器という病に」

五月十八日 〈名古屋市内版〉

・春陽会 山田隆一(可児郡御嵩町) 「魚の位置に苦勞」

・春陽会 松原鉄之(中津高校教諭) 「姿態の美ねらう」

五月十九日 〈岐阜版〉

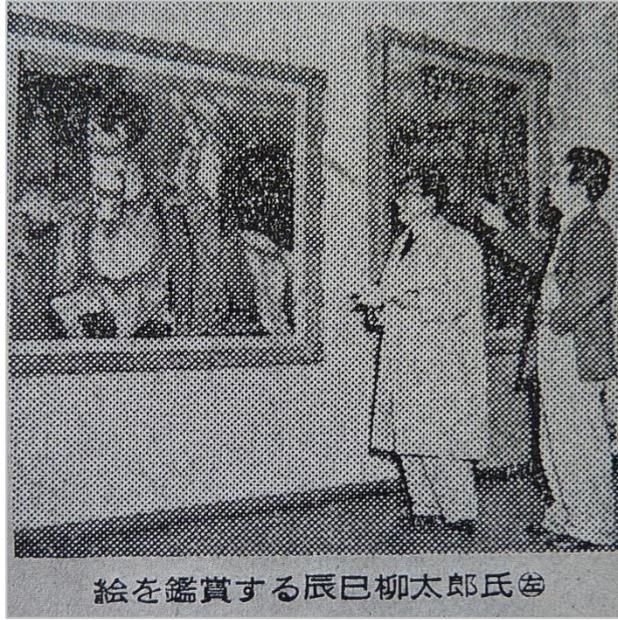
・春陽会 塚田邦彦(瑞浪市釜戸町) 「単純な構造に強さ」

〔報道〕

・『中部日本新聞』 昭和三十二年五月二十七日 (名古屋市民版) (42)

「絵は大好きです」

春陽・国画連合展に 辰巳柳太郎氏訪れる



絵を鑑賞する辰巳柳太郎氏 (辰巳柳太郎氏鑑賞する絵)

二十六日、本社主催の「春陽・国画連合展」(県美術館、二十八日まで)に御園座に出演中の新国劇の辰巳柳太郎氏が姿をあらわし、いそがしい舞台の合間に絵を楽しんだ。春陽会の加賀孝一郎氏の説明を聞きながら、美

術館の採光の良さに感心、「絵はみることも描くことも大好きだが、静かで美しいものが多いですね」と感想をもらし、とくに舞台美術、山を描いた曾宮一念の《南丘爆発》に感慨深げだった。

1957 17~28 May

昭和 32 年 (1957 年) 5/17~28 「春陽・国画連合展」(愛知県美術館 中部日本新聞共催)